

光が丘地区の公共施設再編に向けた市民対話ワークショップの開催について

この度、光が丘地区において、閉校が見込まれる青葉小学校の跡地の利活用を想定した公共施設再編に向けて、今後策定を予定している跡地活用の構想につながる跡地活用のコンセプト、具体的な活用方策、アイデアなどを検討し、まとめていくため、地域団体、施設利用者、公募市民等によるワークショップを開催します。

○ 開催日程

回	開催日時・場所	テーマ
第1回	11月27日(土) 午後3時から 陽光台公民館	学校での思い出や地域活動を共有して、地域の魅力や課題を考えよう！
第2回	12月19日(日) 午後2時から 光が丘公民館	施設を見て、既存ストックを使ってやりたいことなどを考えよう！
第3回	1月中旬 土日祝日の昼間(予定) 光が丘地区内の公共施設	やりたいことなどをカタチにして、再編コンセプトを考えよう！
第4回 (最終回)	2月中旬 土日祝日の昼間(予定) 光が丘地区内の公共施設	実現に向け、施設の使い方などをイメージして再編案をまとめよう！

※新型コロナウイルス感染症の状況により、スケジュール・内容等は変更となる場合があります。(緊急事態宣言中は、原則開催しません)

※傍聴は5名まで可能です。

※取材を希望される場合は、各回の開始15分前から受付いたします。

問い合わせ先

担当 経営監理課

電話 042-769-9240

行政運営上の課題

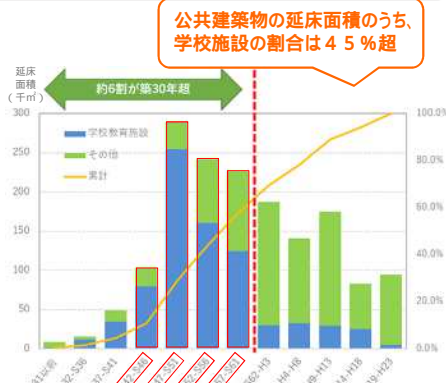
○ 相模原市における公共施設の現状と課題

- ・昭和40年～50年代の人口急増期に、学校や公民館などの多くの公共施設を整備。今後、一斉にこれらの建替え時期を迎える。
- ・人口減少や超高齢化が見込まれる中、今あるすべての施設をこれまでと同じように維持していくことは財政面からも困難。

【公共施設マネジメントの必要性】

次の世代に過度な負担を残さず、持続可能な公共サービスを提供するための施設のあり方を考えることが必要。

(取組目標) 延床面積 20%の削減



【相模原市公共施設マネジメント推進プラン(H29.3)】

取組の推進に向け、施設の複合化や集約化など、「施設分類ごとの施設配置の基本的な考え方」、「22地区ごとの施設配置の方向性」をまとめたもの。

【光が丘地区の施設配置の方向性】

- ・地区内の公共施設の多くが老朽化していく中においては、施設の複合化や多機能化、集約化を図りながら地域の交流拠点を形成し、地域にとって必要な公共サービスの提供を目指す。

○ 光が丘地区の公共施設の状況と課題

- ・療育センター陽光園、陽光台保育園など、子どもに関する地区内の公共施設の多くが築40年以上を経過しており、建て替えなどを検討する時期を迎えています。
- ・小・中学校の児童生徒数の減少に伴う学習環境のあり方の検討を行い、市教育委員会において、「令和7年4月を目途に、青葉小学校を閉校し、光が丘小学校、陽光台小学校、並木小学校に再編する」という対応方針が定められたところです。(R3.8) 詳しくは裏面に

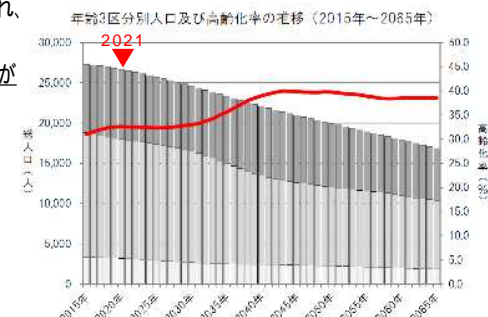
地域の課題

○ 光が丘地区の現状と地域課題

- ・光が丘地区では、人口急増期に、住宅地が一斉に整備され、良好な住環境が形成されている。
- ・人口推計では、今後一貫して人口が減少し、少子高齢化が進行する見込みである。

2020年	2020と比べて 約17%	2040年	2020と比べて 約33%	2060年
26,679人	減少見込み	22,088人	減少見込み	17,911人

出典：2015年国勢調査に基づき(相模原市の将来人口推計)



【光が丘地区まちづくり会議報告書(H30.10)】

・地区まちづくり会議報告書は、市総合計画(区別基本計画を含む)及び都市計画マスタープランの策定に当たり、22の地区まちづくり会議において、地区の課題とその対応方策について検討され、取りまとめられたもの。

現状と課題<抜粋>

- ・少子化の進行による地区内の小学校の教育環境への影響の懸念
- ・小学校の校庭が放課後、土日、夏休み等に開放されないことなどにより、子ども達が自由に遊べる場所が減少しており、その対応に向けて、行政、学校、地域の更なる連携・協力が必要。

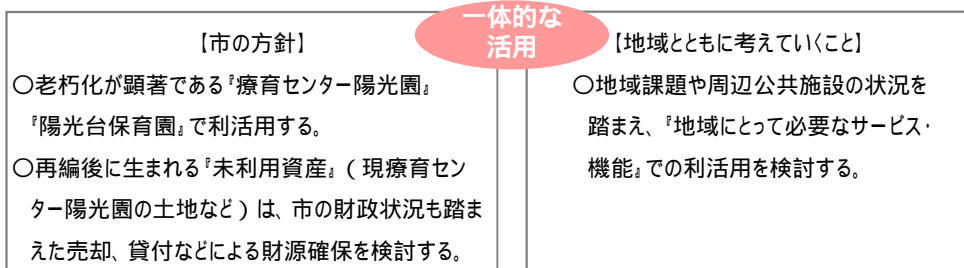
対応方策<抜粋>

- ・統廃合となった場合の小学校跡地の活用の検討(行政・市民)
 - (例：地域で活用できる場、子どもが自由に遊べる場、避難所など)
- ・ボール遊びなど、子どもが自由に遊べる場所を確保するため、放課後、土日、夏休み等の学校の開放(行政・地域)

今後の小学校再編の進捗を踏まえながら、
『地域の課題』や『行政運営上の課題』の解決方法を『市民対話』を通じて検討

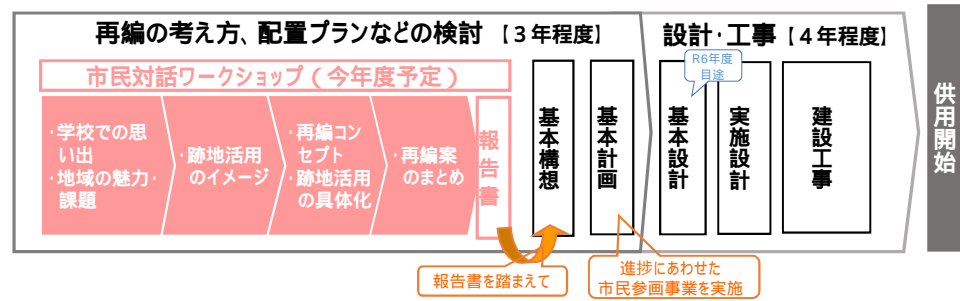
取組の方向性

- ・青葉小学校の閉校後の跡地(既存ストック)は、「避難所としても使える、子どもや地域の活動の場」を基本とした活用を検討する。
- ・既存ストックの活用を想定した公共施設の再編・再整備を地域とともに検討する。



市民対話ワークショップと全体のロードマップ

ワークショップにより、今後の跡地活用の構想につながる、跡地活用のコンセプト、具体的な活用方策、アイデアなどを検討し、報告書にまとめる。その報告書を踏まえ、基本構想を策定し、実現に向けた取組を進める。



今後の調整や新型コロナウイルス感染症の状況等により、内容やスケジュールは変更となる可能性があります。

光が丘地区の公共施設の状況と課題

療育センター陽光園 築46年
 建設年度 S49 - H5
 延床面積 3,290㎡
 現地建替えは、敷地規模や周辺状況から、課題が多い。



陽光台保育園 築46年
 建設年度 S49
 延床面積 718㎡
 現地建替えは、敷地規模や周辺状況から、課題が多い



陽光台小学校 築45年
 建設年度 S50-S51
 延床面積 6,409㎡
 学習環境のあり方検討対象



光が丘小学校 築52年
 建設年度 S44-H2
 延床面積 7,876㎡
 学習環境のあり方検討対象



併設：光が丘児童クラブ

光が丘児童館 築49年
 建設年度 S46
 延床面積 196㎡



青葉小学校 築43年
 建設年度 S52-S53
 延床面積 5,718㎡
 学習環境のあり方検討対象



併設：青葉小学校放課後子ども教室・青葉児童クラブ

並木小学校 築46年
 建設年度 S49-S50
 延床面積 7,002㎡
 学習環境のあり方検討対象



光が丘公民館 築36年
 建設年度 S59
 延床面積 1,004㎡
 長寿命化改修検討対象



青葉児童館 築46年
 建設年度 S50
 延床面積 253㎡
 行財政構造改革プランの見直し対象



光が丘連絡所 築23年
 建設年度 H10
 延床面積 60㎡
 行財政構造改革プランの見直し対象

建設年度は、棟ごとに表しています。
 (古い棟 - 新しい棟)

市営住宅、消防団詰所は除いています。

● 認可保育園、認定こども園

